

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ゆめラボ宇品教室					公表日 2025年 12月22日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境 ・ 体 制 整 備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7				
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		基本人員にプラスした人員が配置されている。 個別の療育ではなく、2人対1人の同時療育を行うこともある。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		主にTeachプログラムなどを取り入れ、必要に応じて情報伝達の仕方を変えている。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		二定管理を基本とし、整頓された環境を整えている。 毎日ルーティーンの掃除のほか、決められた箇所を15分間清掃する時間を設けている。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて面談室を静養スペースとする。		
業務 改 善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		ミーティングの機会を設けている。	療育についてはさらに深めていく必要を感じる。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		自己評価とは別に保護者向けアンケートを実施した。定期的に実施予定。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		個人面談を実施。 数か月に一度職員向けアンケートも実施されている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	外部評価に向けた自己チェックを年2回実施。 入社したばかりのため不明。	実際の実施はまだない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修動画が作成されており、常に向上を図る機会が設けられている。 入社時、社内研修の時間を設けている。 BCP部による研修の機会もある。		
適切 な 支 援 の ・ ・	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		職員間ではミーティングの際に社内の指標をもとに実施。 支援計画の更新に合わせてアセスメントを実施。	定期的な実施を定着させていく。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		子どもの様子など意見を募って作成。	制度を一貫させる。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援への取り組み方は職員によって異なるが、個人に応じた内容となっている。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		社内の指標に基づき実施。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		小集団療育では集まって内容を検討している。 共通の認識を持てるようにしている。	常にではない。	

提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		前回取り組んだものと重なっていないか、サービス提供記録を振り返りながら確認している。 職員間で声を掛け合いながら偏らないように努めている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団療育も実施。個々に応じて2人同時での療育も実施。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	毎朝担当を決めて療育を行っている。	実施できる日と、別途業務の情報共有で終わる日がある。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	支援の直後、または翌日に気になった点を共有している。 教室のグループチャットを活用。	実施頻度にばらつきがある。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		職員情報共有欄の活用。 記録は取っている。	検証を行う頻度にばらつきがある。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		全職員で見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		保育園や幼稚園との関係機関連携だけでなく、療育センター言語の教室との連携も行った。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			さらに積極的に、開けた推進の提案を行っていくとよい。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	実施なし。 立ち会ったことがない。	
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3	自ら療育センターに行き、連携を図った。	他事業所との連携がほとんどない。 体制が整うとよい。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	2	5	卒園児が事業所の行事を手伝うこともあった (他教室)	事業所外での交流がない。
	33 曜頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		サービス提供記録のほか、公式LINEを通じたやりとりを行っている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		ペアレントトレーニングを実施。	
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		面談を聞き取りを行っている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談は状況に応じて保育園を訪問した職員が対応することもある。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	卒園された保護者の方を招待した保護者交流会、季節の行事で事業所内で、交流の機会を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		すみやかに対応し、また全教室で状況を共有している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		SNS部があり、計画的に投稿を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		必要に応じて絵カードでの意思表示の練習も行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	地域交流会を年に1度実施。	立ち合いなしのため不明。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			訓練の実施はより丁寧に具体的にしていく必要がある。
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1	投薬の必要がある場合は、依頼書を記載していただぐ。	アセスメントシートに記載はあるが、把握できていない職員もいるので、入所時に情報共有の時間を設ける必要がある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	指示書の提出はないが、机を分けるなど状況に応じて対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		事業所内だけでなく、事業部全体での共有も行っている。	ヒヤリハットを未然に防ぐための意識をより高めていく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			